

# 小児用肺炎球菌の予防接種について

## 病気（小児の肺炎球菌）の説明

肺炎球菌は、細菌による子どもの感染症の二大原因のひとつです。この菌は子どもの多くが鼻の奥に保菌していて、ときに細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎といった病気を起こします。

現在は、肺炎球菌ワクチンが普及し、肺炎球菌性髄膜炎などの侵襲性感染症は激減しました。

## 副反応について

接種局所の紅斑、腫脹（はれ）、発熱が認められています。

## 接種時期

生後2か月～5歳未満の方。ただし、接種開始月齢によって接種回数、接種間隔が異なります。

### (1) 生後2か月～6か月（推奨年齢）で初回接種を行なう場合

接種回数：4回

接種間隔：初回接種：27日以上の間隔をあけて3回

追加接種：初回接種3回終了後、60日以上の間隔をあけ、かつ1歳を過ぎて1回

### (2) 生後7か月～12か月で初回接種を行なう場合

接種回数：3回

接種間隔：初回接種：27日以上の間隔をあけて2回

追加接種：初回接種2回終了後、60日以上の間隔をあけ、かつ1歳を過ぎて1回

### (3) 1歳～2歳未満で初回接種を行なう場合

接種回数：2回

接種間隔：60日以上の間隔をあけて2回

### (4) 2歳～5歳未満で初回接種を行なう場合

接種回数：1回